

# 全国漁業協同組合連合会ほか2者

## ■取組の背景

- 三重県産活カキのシンガポール向け輸出が平成30年12月に解禁。しかし、シンガポール国内において活カキを販売先の注文数に合わせて再梱包する必要があり、衛生上の問題、包材の無駄、コスト・時間のロスが発生していた。

## ■取組の目的

- シンガポール国内における日本産活カキマーケットの開拓
- 海外における日本産活カキのブランド構築
- 輸出の効率化に向けた情報共有システムの構築

## ■協議会の構成員と役割

段階	名称	役割	
事業実施者	生産	有限会社佐藤養殖場	・活カキの衛生管理の実施 ・輸出先の要望に応じた梱包作業の実施
	生産	有限会社丸善水産	・カキの衛生管理の実施 ・輸出先の要望に応じた梱包作業
	統括	全国漁業協同組合連合会 (JF全漁連)	・協議会の運営・とりまとめ、輸出手続き ・現地試食会・プロモーション活動の実施
	流通輸出	Nichiry Foods Pte.,Ltd (JF全漁連関連会社)	・カキ輸出に関する各種支援・手続き ・シンガポール国内での販売・情報収集

## ■取組内容

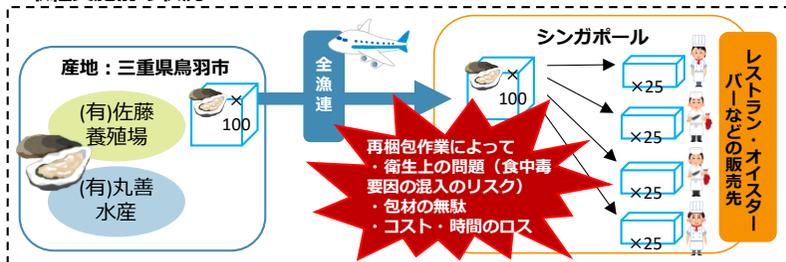
生産	◆三重県産活カキのシンガポール向け輸出
✓	活カキのシンガポール向け出荷⇒三重県産活カキのシンガポール国内のニーズに合わせた流通・販売体制を検討
✓	小分け出荷の実施⇒コスト増大等を防ぐため、現地顧客のニーズに合わせた日本国内での小分け梱包（養殖業者）による活カキ輸出を実施
✓	冷凍カキのシンガポール向け出荷⇒活カキ輸出のオフシーズン（7～10月）を中心に冷凍カキの輸出を検討

加工・流通	◆シンガポール国内における日本産カキのマーケティング
✓	シンガポール国内における飲食店向け販売促進⇒シンガポール国内の販売先を対象とした活カキの試食会等のPR活動を実施
✓	シンガポール国内における三重県産カキのブランド構築⇒三重県産活カキの品質の高さや高い安全性を強みとして、シンガポール国内における三重県産活カキのブランドを構築
✓	生産現場へのフィードバック⇒試験出荷やPR活動で得られたシンガポール国内の飲食店や消費者の意見を集約し、カキ養殖の生産現場へフィードバックする

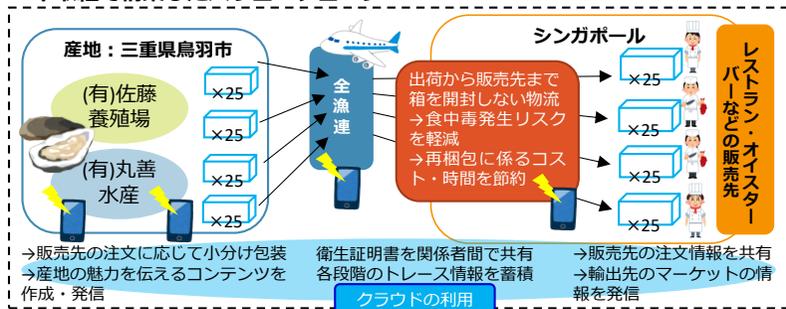
輸出	◆タブレット端末の導入による情報共有と効率化
✓	タブレット端末の導入⇒カキ養殖生産者、流通関係者間でデータベースサーバーを共有することで、輸出に関する作業の効率化を推進
✓	情報供給システムの構築⇒データベース上に情報共有システムを構築し、関係者間の連携強化と事務作業の効率化を図る
✓	販売促進・PRへの利活用⇒生産～流通の過程を動画で撮影し、顧客へ見せる等、タブレット端末を販売促進・PRの手段としても活用

# 三重県産活カキのシンガポール向け輸出促進

## ■取組実施前の状況



## ■本取組で構築したバリューチェーン



## ■取組の現状と今後の展望

- R3年度よりマガキに加えてイワガキの輸出を開始。
- R4年度はイワガキと冷凍カキの輸出が好調で、輸出実績も徐々に増加している。
- 今後はシンガポールに加えて、マレーシア向けの輸出を検討。

### ★本取組によって得られたバリュー★

新規マーケット開拓	シンガポール国内における日本産カキのブランド確立
付加価値向上	高品質かつ現地のニーズに合った活カキ製品の輸出
システム構築	タブレット端末の導入による情報共有と効率化